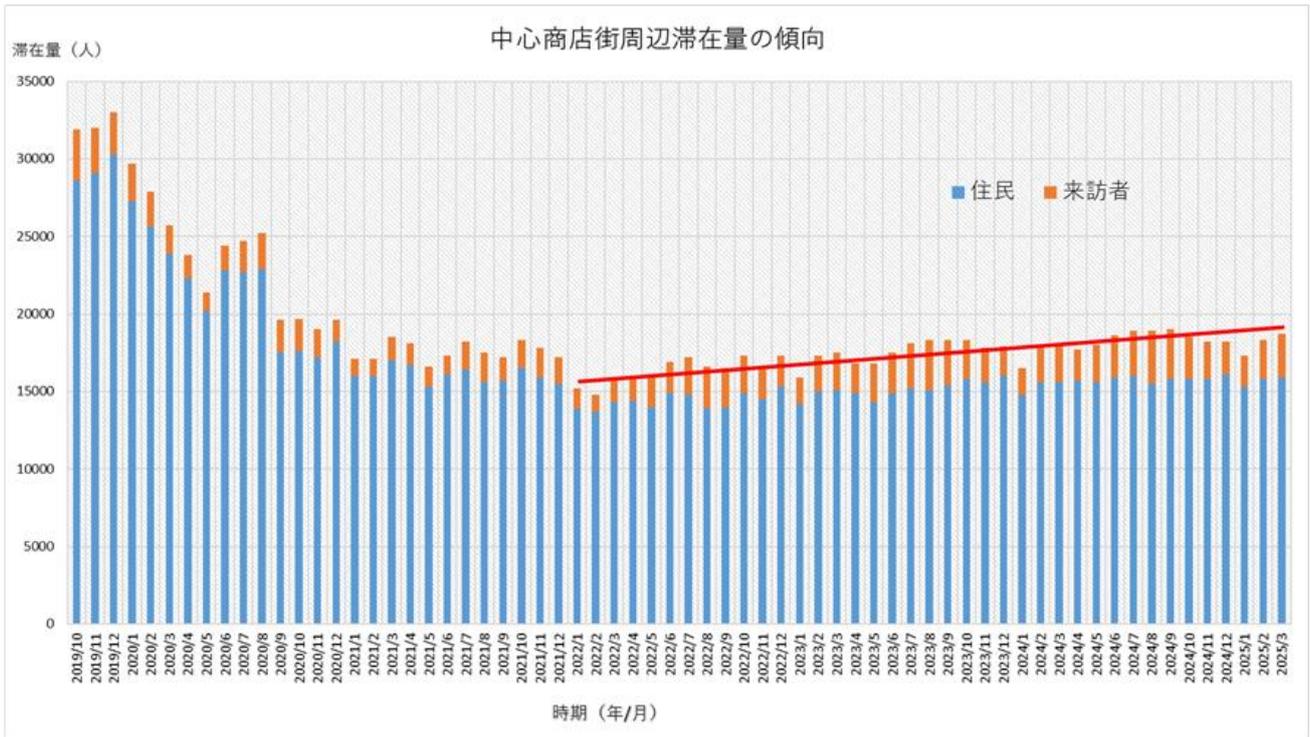


**令和6年度
中心商店街周辺滞在量調査結果**

**令和7年9月
小樽市産業港湾部**

6 調査結果概要

(1) 中心商店街周辺滞在量の傾向



出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

- ・調査地域における2019年10月以降の月別1日あたり滞在量データを取得・分析
- ・コロナ渦において減少した滞在量が、以前の状態には戻っていない。
- ・2022年以降、住民と比較し絶対量は少ないながらも、来訪者は増加傾向にあり、住民と来訪者を合わせた全体的な滞在量の傾向としては、わずかながら増加傾向がみられる。

(中心商店街周辺滞在量データ)

1日あたり滞在量月間平均値 (単位：人)

年月	2019/4	2019/5	2019/6	2019/7	2019/8	2019/9	2019/10	2019/11	2019/12	2020/1	2020/2	2020/3
住民							28,600	29,100	30,300	27,300	25,600	23,900
来訪者	データ取得可能期間外						3,300	2,900	2,700	2,400	2,300	1,800
合計							31,900	32,000	33,000	29,700	27,900	25,700

年月	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3
住民	22,300	20,200	22,800	22,700	22,900	17,500	17,600	17,200	18,200	16,000	16,000	17,000
来訪者	1,500	1,200	1,600	2,000	2,300	2,100	2,100	1,800	1,400	1,100	1,100	1,500
合計	23,800	21,400	24,400	24,700	25,200	19,600	19,700	19,000	19,600	17,100	17,100	18,500

年月	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3
住民	16,700	15,300	16,100	16,400	15,600	15,700	16,500	15,900	15,500	13,900	13,700	14,300
来訪者	1,400	1,300	1,200	1,800	1,900	1,500	1,800	1,900	1,700	1,300	1,100	1,600
合計	18,100	16,600	17,300	18,200	17,500	17,200	18,300	17,800	17,200	15,200	14,800	15,900

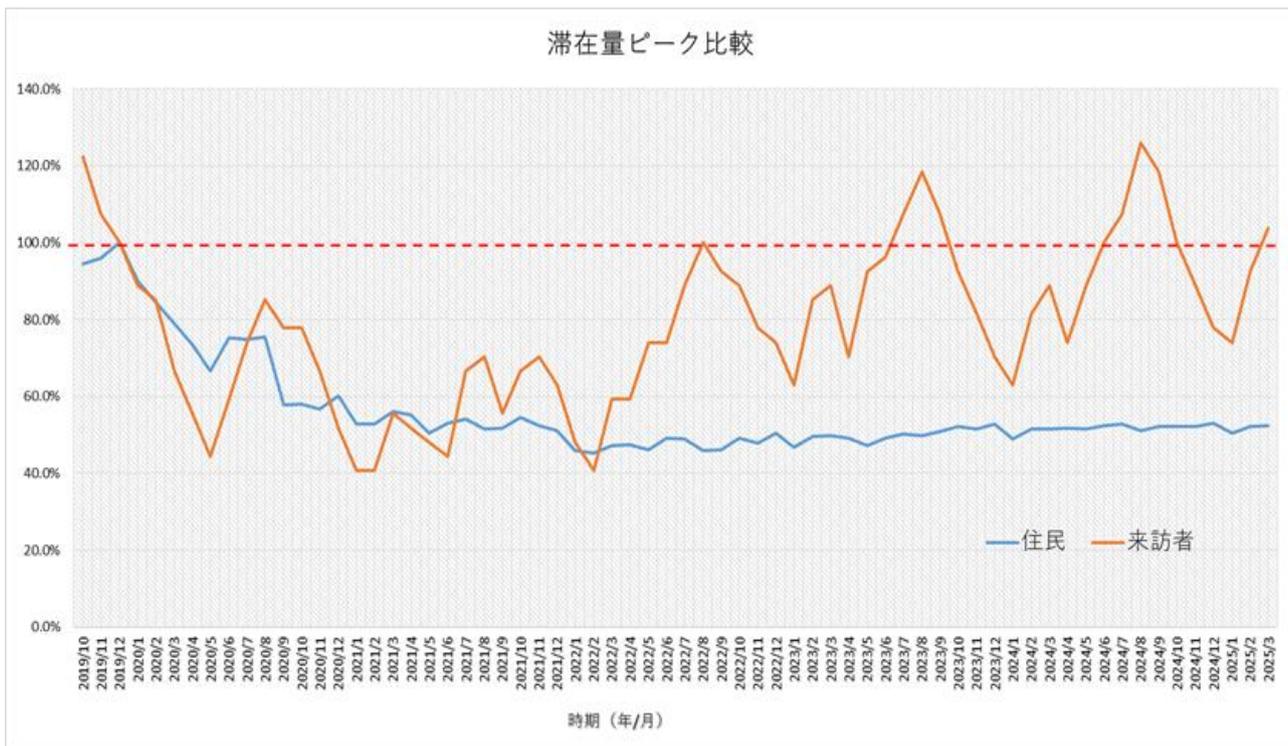
年月	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3
住民	14,400	14,000	14,900	14,800	13,900	14,000	14,900	14,500	15,300	14,200	15,000	15,100
来訪者	1,600	2,000	2,000	2,400	2,700	2,500	2,400	2,100	2,000	1,700	2,300	2,400
合計	16,000	16,000	16,900	17,200	16,600	16,500	17,300	16,600	17,300	15,900	17,300	17,500

年月	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3
住民	14,900	14,300	14,900	15,200	15,100	15,400	15,800	15,600	16,000	14,800	15,600	15,600
来訪者	1,900	2,500	2,600	2,900	3,200	2,900	2,500	2,200	1,900	1,700	2,200	2,400
合計	16,800	16,800	17,500	18,100	18,300	18,300	18,300	17,800	17,900	16,500	17,800	18,000

年月	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3
住民	15,700	15,600	15,900	16,000	15,500	15,800	15,800	15,800	16,100	15,300	15,800	15,900
来訪者	2,000	2,400	2,700	2,900	3,400	3,200	2,700	2,400	2,100	2,000	2,500	2,800
合計	17,700	18,000	18,600	18,900	18,900	19,000	18,500	18,200	18,200	17,300	18,300	18,700

出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

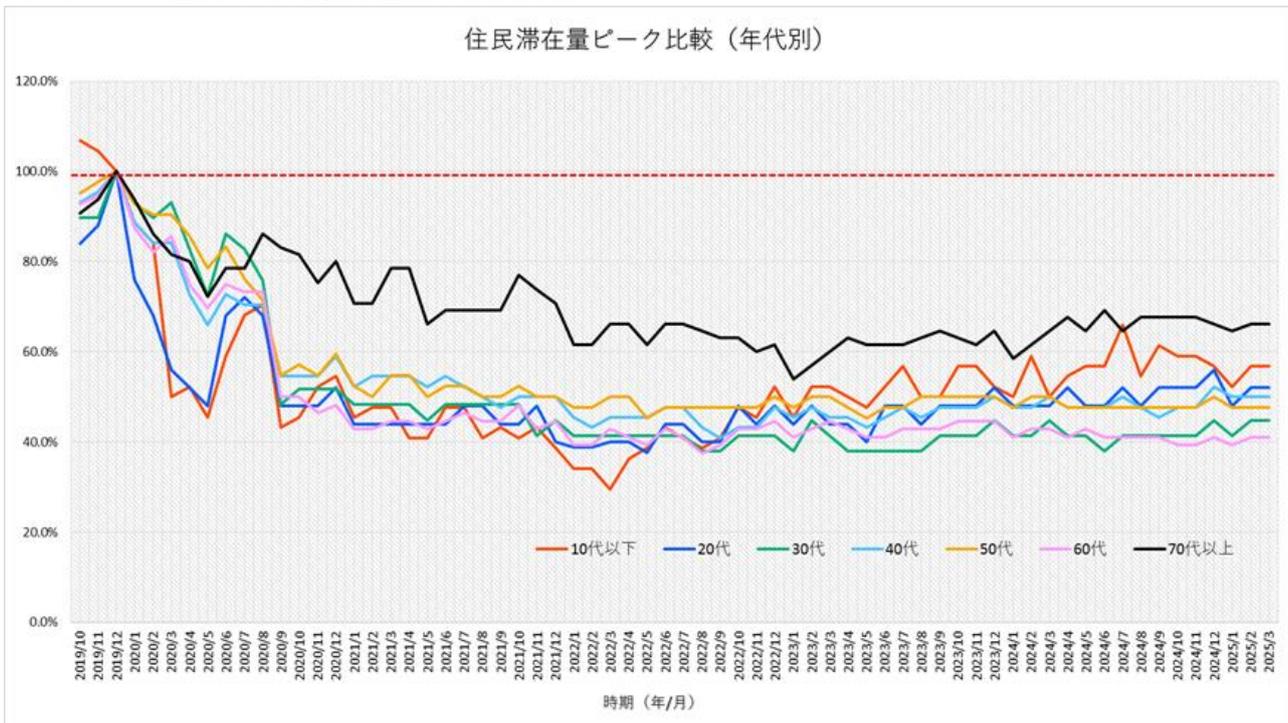
(2) 滞在量の傾向分析



出典：ヤフー・データソリューション DS. INSIGHT

- ・調査期間における住民・来訪者合計滞在量ピーク時（2019年12月、33,000人）を100%とした際の、それぞれの滞在量の傾向を可視化
- ・住民については、滞在量減少後、現在においても横ばい状態となっている。
- ・一方、来訪者については、近年増加傾向にあり、コロナ渦前に戻りつつある状況といえる。

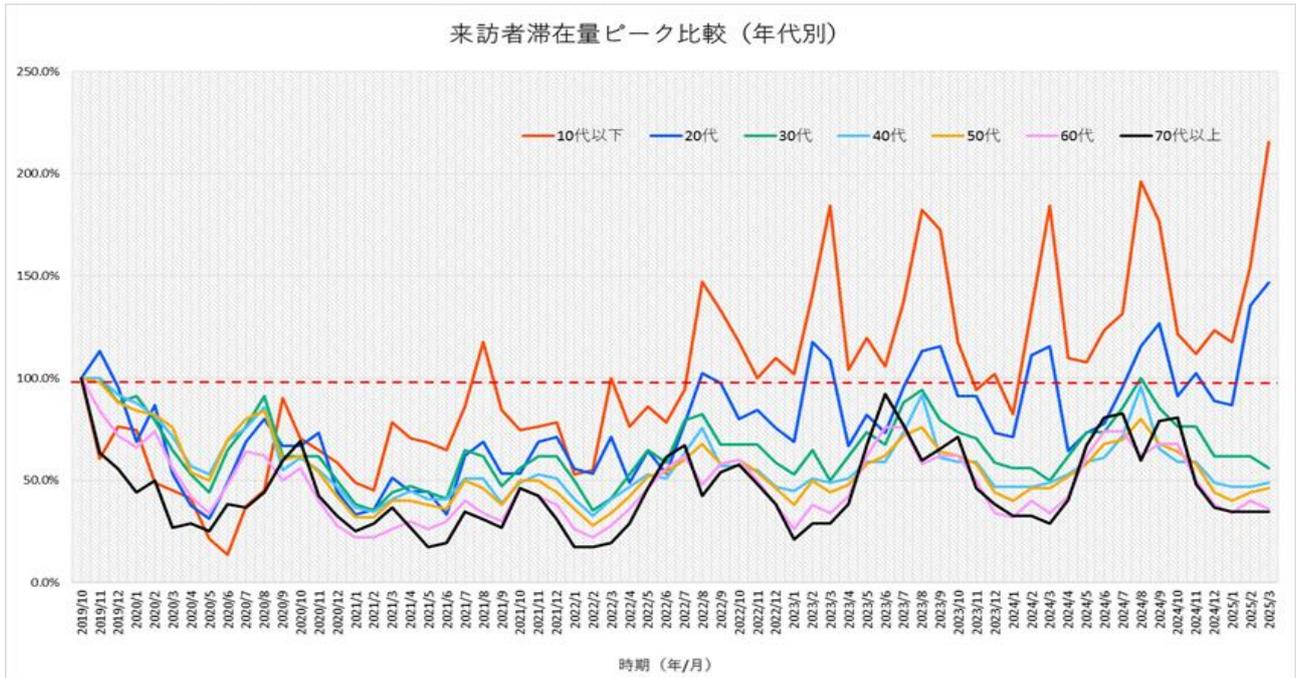
(2) - a 住民の年代別滞在量の傾向分析



出典：ヤフー・データソリューション DS. INSIGHT

- ・滞在量のピーク時比較について、年代別に分析
- ・住民滞在量ピーク時（2019年12月、30,300人）を100%とした際の、滞在量の傾向を可視化
- ・住民については、10代以下は、やや回復傾向が見られるが、その他年代は、コロナ渦における滞在量減少後、現在においても横ばい状態となっている。

(2) - b 来訪者の年代別滞在量の傾向分析

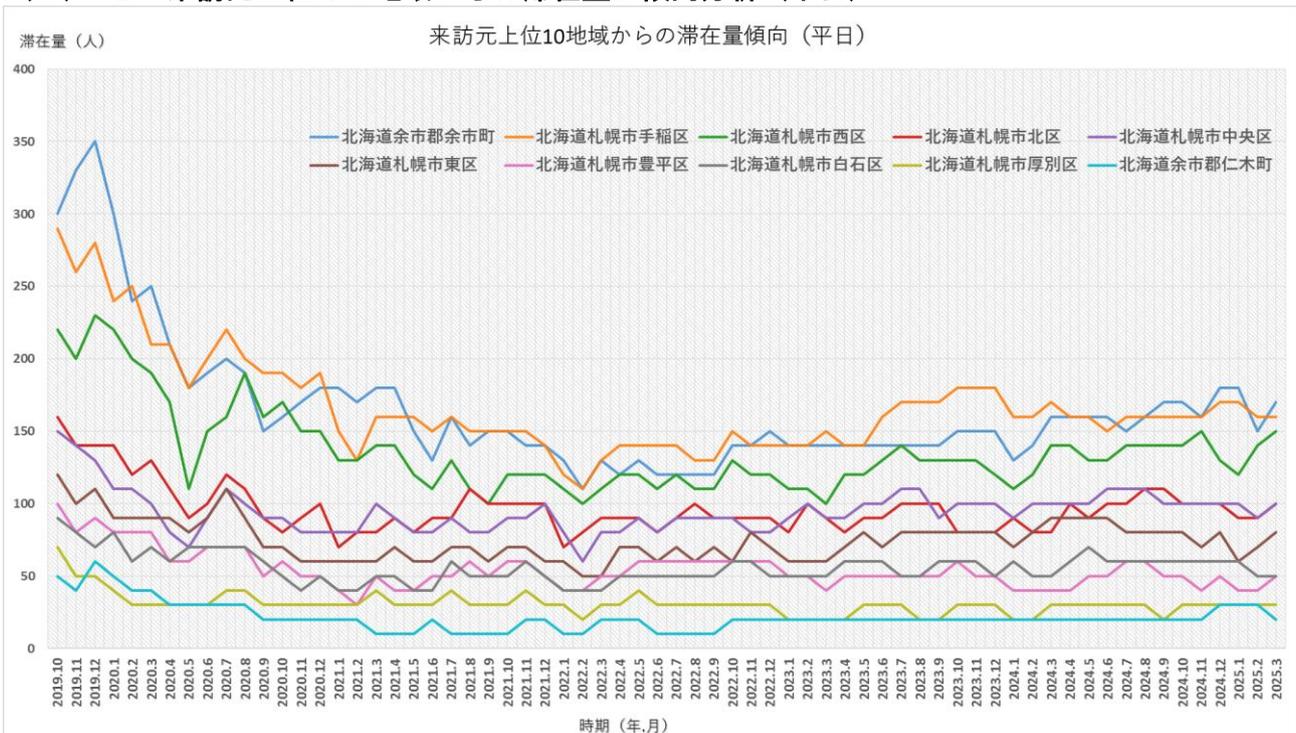


- ・増加傾向にある来訪者について、同様に分析
- ・来訪者滞在量ピーク時（2019年10月、3,300人）を100%とした際の、滞在量の傾向を可視化
- ・全体的に回復基調であるなか、特に10代・20代が増加傾向にあることが見られる。

(3) 来訪者の来訪元分析

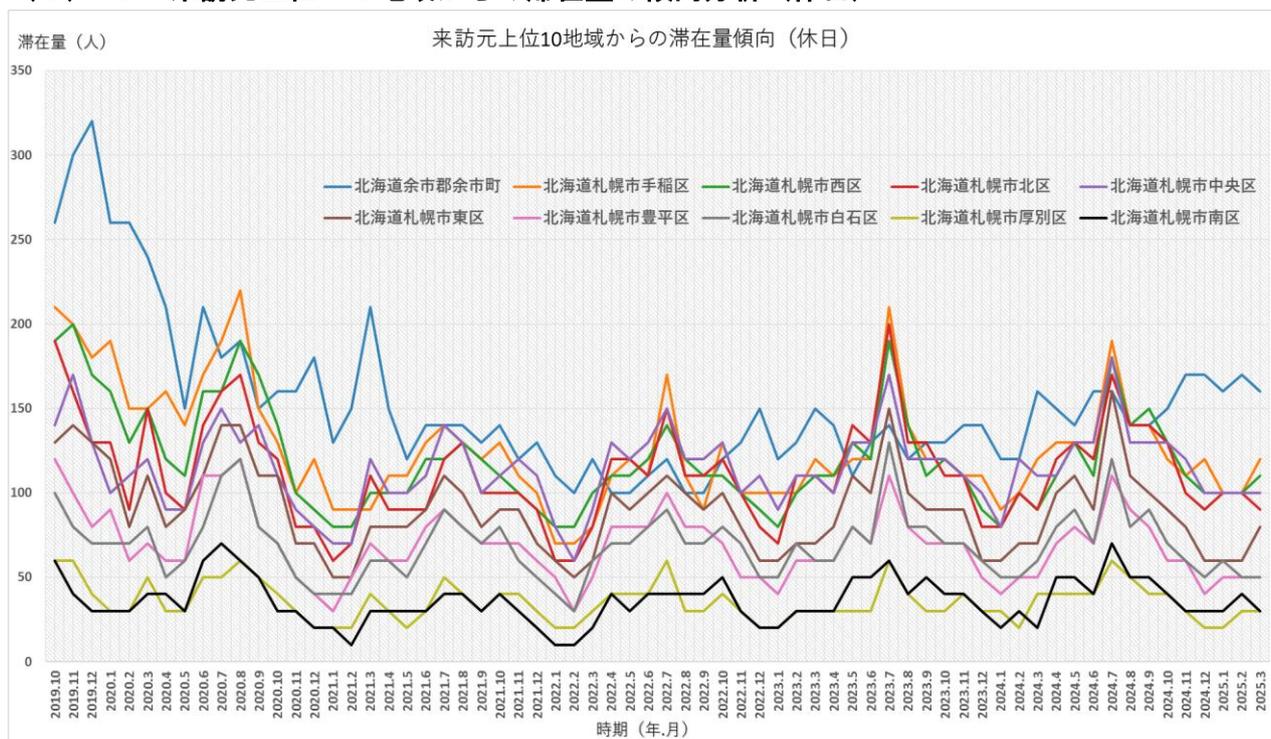
- ・来訪者の来訪元別滞在量について、上位10地域からの滞在量データを取得・分析
- ・平日・休日とも、札幌市からの来訪が中心ではあるが、余市町からの来訪も多い。
- ・グラフには表れていないが、休日については、道外等の来訪元地域数が増える。

(3) - a 来訪元上位10地域からの滞在量の傾向分析（平日）



- ・来訪者の来訪元別滞在量について、上位10地域からの平日の滞在量データを取得・分析
- ・コロナ渦における滞在量減少後、現在においてもほぼ横ばい状態となっている。

(3) - b 来訪元上位10地域からの滞在量の傾向分析（休日）



出典：ヤフー・データソリューション DS. INSIGHT

- ・来訪者の来訪元別滞在量について、上位10地域からの休日の滞在量データを取得・分析
- ・コロナ渦における滞在量減少後、余市町や札幌市の一部地域からの来訪については、やや回復傾向が見られる。
- ・季節により滞在量の増減が見られる。滞在量のピークは7月に見られ、潮まつり等のイベントの影響によるものと考えられる。

【まとめ】

- ・コロナ渦において減少した滞在量が、以前の状態には戻っていない状況が見られる。
- ・住民の滞在量が横ばい状態であることについては、コロナ渦における生活スタイル変化の影響があるものと考えられる。
- ・若年層の滞在量については、増加傾向が見られる。
- ・近年では、絶対量は少ないながらも、来訪者は増加傾向にあり、それにより、住民と来訪者を合わせた全体的な滞在量の傾向としては、わずかながら回復傾向が見られ、特に、若年層の来訪者が増えている。
- ・小樽市周辺からの来訪者は、コロナ渦における滞在量減少後、平日については横ばい状態であるが、休日については、やや回復傾向が見られる。
- ・来訪者の増加傾向の要因としては、道外等の、幅広い地域からの来訪者が増加していることによるものと考えられる。

この状況について中心部の商店街に聞き取りを行ったところ、次のような声があった。

- ・余市や仁木等の後志管内のニーズが、小樽（自分の店）に流れてきている感じがある。
- ・外国人観光客が多いが、その中で日本人も、特に若い人が商店街を散策している様子が見られる。
- ・最近、若い旅行者グループに、場所を尋ねられる機会が増えている。

